



KU EXPRESS

- 関西大学 プレスリリース -

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号 関西大学企画室広報課 TEL 06-6368-0007 FAX 06-6337-7078

2005.No.1 / 2005年4月1日

大学生に森羅万象をアンケート

関大生に聞く大学生の「結婚観」

結婚願望や結婚する理由、欲しい子どもの数、「浮気」「結婚生活を続ける秘訣」まで
～大学生が考える「結婚」のイメージを関西大学広告研究会が大学生の視点で“直撃”～

関西大学学術研究会「関西大学広告研究会」(部員：12名、部長：森脇千晴(3年次生 社会学部) 通称：関大広告研)では、大学生の“今”を探ることを目的に2004年10月にアンケート調査を実施しました。

テーマは「結婚観」。

現在、わが国において大きな問題となっている少子化の主な要因のひとつと考えられている晩婚化の進行や未婚率・離婚率の上昇、また「結婚しない症候群」から「DINKS」など、結婚をめぐる現象は以前に比べ多様化してきています。

こうしたなか、結婚予備軍世代といえる大学生は、結婚に対してどのようなイメージを持っているのでしょうか。

今回は、関西大学の学生300名を対象に関大広告研が作成したアンケート用紙を配布、男子71名、女子162名、合計233名から有効回答が得られました。

集計の結果、男女とも7割以上が結婚願望を持ち、半数以上が「暖かい家庭を築きたい」と考えていることが分かりました。また、結婚については「自分の家族が持てる」という意見が4割を占める一方、女子の1割が「結婚生活に期待はしていない」と答え、全体の3割近くが離婚に「あまり抵抗がない」というドライな意識の側面を見せました。

結婚生活では、女子の7割以上が「結婚後も仕事を続けたい」と考え、専業主婦について4割以上が「なりたくない」と思っている反面、4人に1人が「できればなりたい」と答えています。

また、全体の6割が子どもを願望し、ほぼ全員の女子が「夫に家事をさせたい」。浮気では全体の4割が「許せないけど、陳謝すれば一度だけなら許せる」と相手の誠実さを重視しました。そして、結婚生活を続けるための秘訣は「やさしさと思いやり」が4割を超えて第1位にランクされました。

以下は、調査結果の概要をまとめたものです。

アンケート調査結果の概要

調査概要

- 調査テーマ : 「結婚観」について
- 調査期間 : 2004年10月1日～20日
- 調査方法 : アンケート用紙の留置記入法(授業終了後に学生300名に配布のうえ回収)
- 調査対象 : 関西大学の1～4年次生(韓国・中国・台湾からの留学生14人を含む)
年齢は19～23歳(留学生は26歳まで)
- 所属学部 : 法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、工学部
- 出身地 : 東京、埼玉、神奈川、茨城、富山、石川、福井、愛知、静岡、三重、大阪、兵庫、
京都、滋賀、奈良、和歌山、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、
佐賀、長崎、宮崎、鹿児島(28都府県)
- サンプル数 : 全体 / 233名(回収率:77.7%) 内訳:男子71名、女子:162名

関西大学広告研究会

- 設立 : 1958年
- 部長 : 森脇 千晴(3年次生 社会学部)
- 部員数 : 全12名(男子:2名、女子:10名)
- 主な活動内容 : Kandai Walker の作成
他サークルの広告制作
フリーペーパーの作成など

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 企画室広報課 / 川瀬 北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6337-7078

目次

結婚にいたるまで

1. 交際中の相手について 5
全体の約3割が異性と交際中
すでに「結婚前提」で交際中の人も
2. 将来の結婚願望 5
結婚願望を持っているのは男女とも7割
女子学生の2割超が「わからない」と回答
3. 結婚する理由(複数回答) 6
「暖かい家庭を築きたい」が半数
男子に多い「愛する人と長く一緒にいたい」という理由
4. 結婚に対するイメージ 7
上位3項目を占めた前向きなイメージ
「結婚生活に期待していない」消極的な女子は1割
5. 恋愛結婚とお見合い結婚 8
男女とも約5割がお見合い結婚でも「OK」
3人に1人の割合に留まった恋愛派
6. 結婚したい年齢 8
男女とも20代後半(26～29歳)がトップ
30代前半と考えている女子は5人に1人
7. 結婚相手との年齢差に対する意識 9
年齢差は「5歳まで」が半数以上
“年の差なんて!”という人は5人に1人
8. 年上と年下へのこだわり 9
男子の6割が年上・年下に“こだわりなし”
女子では7割以上が「年上」を希望
9. 結婚式へのこだわり 10
男子の約半数が「結婚式にこだわらない」
全体の約1割が海外挙式を希望
10. 「離婚」に対する抵抗 10
3割近くが離婚に「あまり抵抗がない」
「抵抗がある」人は3分の2の割合に
11. 夫婦別姓について 11
4割以上が夫婦別姓に理解
「理解できない」という“不支持派”の女子は約2割

12. 国際結婚について	12
国際結婚希望は全体の1割	
女子の6割以上が日本人同士で	
結婚生活について	
13. 結婚後の仕事について	13
女子の7割以上が結婚後も仕事	
子どもができて6割以上が仕事を続けたい	
14. 結婚相手に求めるもの	14
6割が“プライバシーの尊重、思いやり”	
女子は彼の「将来の生活設計」を重視	
15. 結婚生活で夫・妻に優先的にのぞむこと	15
女子は「安定した収入の確保」	
男子は「仕事はほどほどで家庭を大切に」	
16. 専業主婦(主夫)について	16
専業主婦になりたくない女子は4割以上	
専業主婦になりたい女子も4人にひとり	
17. 「子ども」について	16
全体の6割が「子どもはほしい」	
男子よりも女子に多い子ども願望	
18. うまくいくと思う夫婦関係	17
うまくいくと思う夫婦関係は「友だち夫婦」	
女子の約6割が“友だち感覚”を支持	
19. 結婚相手の親との同居	17
相手の親との同居したくない人は7割以上	
自分の親との同居も、女子で1割	
20. 家事の協力	18
「夫には家事をさせたくない」女子はわずか	
「結婚してみないと」と考える甘い見通しの男子	
21. 浮気について	18
「陳謝すれば一度だけなら許せる」が4割	
即離婚という“即断型”は約3分の1	
22. 結婚生活を続けるための秘訣とは	19
「やさしさと思いやり」が4割	
お互いの個性の尊重が次点にランク	

結婚にいたるまで

1. 交際中の相手について

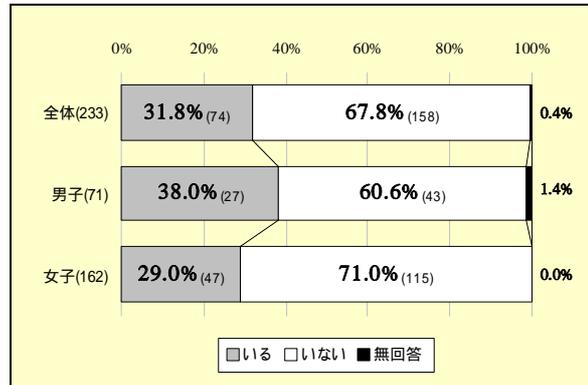
全体の約3割が異性と交際中
すでに「結婚前提」で交際中の人

現在、交際している相手がいると答えたのは全体で31.8%と3分の1の割合になりました。

男女別で見ると男子が38.0%、女子が29.0%となり、交際相手がいるのは、男子学生の方が多く結果となっています。

ちなみに「結婚前提」で交際しているかどうかについて聞いてみたところ、男子が9人、女子が7人でした。学生時代から2人の将来について、すでに“約束”している人も中にはいるようです。

異性との交際状況



2. 将来の結婚願望

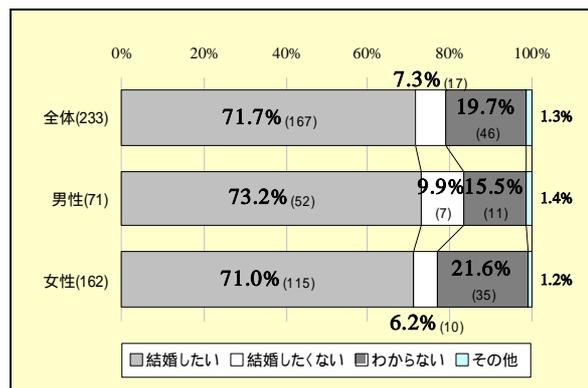
結婚願望を持っているのは男女とも7割
女子学生の2割超が「わからない」と回答

将来の結婚願望について聞いてみたところ、「結婚したい」と回答した割合は、男女とも71.7%を超え、7割を超える学生が結婚願望を持っている結果となりました。

一方、「結婚したくない」という回答は、7.3%で1割に届かず、「わからない」と答えた人は、19.7%と2割に迫りました。

男女別で比較してみると、9.9%と男子の約1割が「結婚したくない」と回答。女子では「わからない」と答えた割合が21.6%と2割を超えました。

将来の結婚願望



「暖かい家庭を築きたい」が半数
男子に多い「愛する人と長く一緒にいたい」という理由

結婚する理由について聞いてみたところ、男女とも「暖かい家庭を築きたい」が第1位となり、全体の51.5%と半数を超える割合になりました。

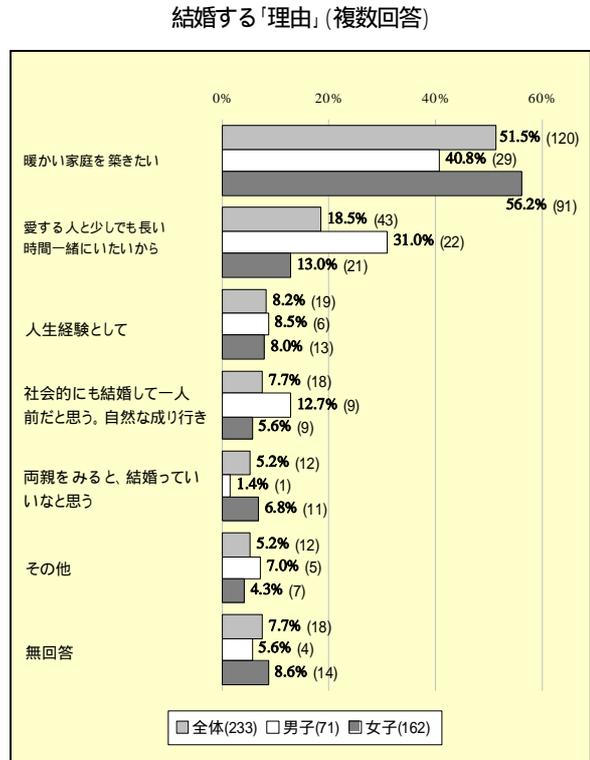
とくに女子ではダントツの56.2%と半数以上の割合で、男子の40.8%に15ポイント以上の差をつけました。

一方、「愛する人と少しでも長い時間一緒にいたいから」では男子が31.0%と3割を超えたのに対し、女子では半分以下の13.0%に留まり、18ポイントと大きな差が見られました。

また、男子では、「社会的にも結婚して一人前だと思う。自然な成り行き」が12.7%と1割を超える割合となりました。

総体的に見てみると、男女とも「暖かい家庭を築きたい」という点を重視している傾向が見られるものの、男子では結婚という言葉に結婚相手との密接感、社会的地位の確保などが含まれているようです。

一方、前問で「結婚したくない」と回答した人(男子:7人、女子:10人)にその理由を聞いてみたところ、「自由を束縛されたくない」(男子:2人、女子:4人)、「メリットよりデメリットが多いと思う」(男子:4人、女子:2人)、「両親を見て、結婚には幻想をもってはいない」「異性に興味がない」(ともに男子:1人、女子:2人)といった回答が寄せられました。



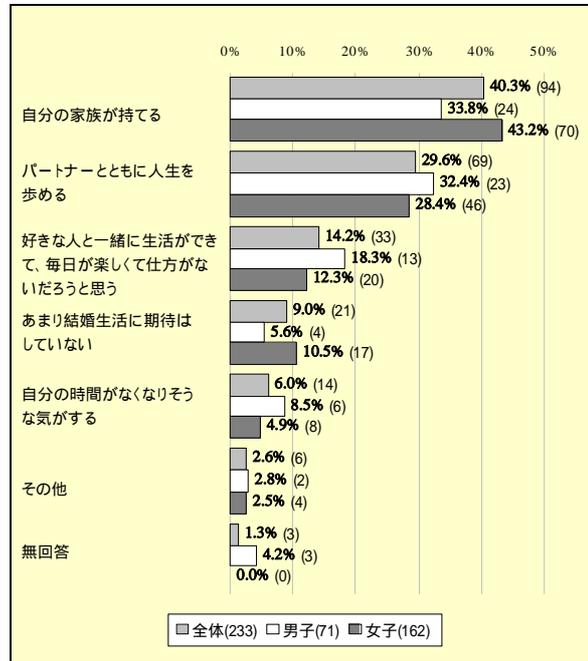
上位3項目を占めた前向きなイメージ 「結婚生活に期待していない」消極的な女子は1割

結婚のイメージでは、「自分の家族が持てる」(40.3%)が第1位となりました。以下、「パートナーとともに人生を歩める」(29.6%)、「好きな人と一緒に生活ができて、毎日が楽しくて仕方がないだろうと思う」(14.2%)と続き、“ポジティブなイメージ”が上位3項目を占めました。

一方、「あまり結婚生活に期待はしていない」というネガティブな意見は、女子が男子を上回り10.5%と10人に1人の割合となりました。

よく“女の幸せは結婚”とも言われていますが、結婚に対して“冷めた目”を持つ女性も少なくないようです。

結婚のイメージ(複数回答)



5. 恋愛結婚とお見合い結婚

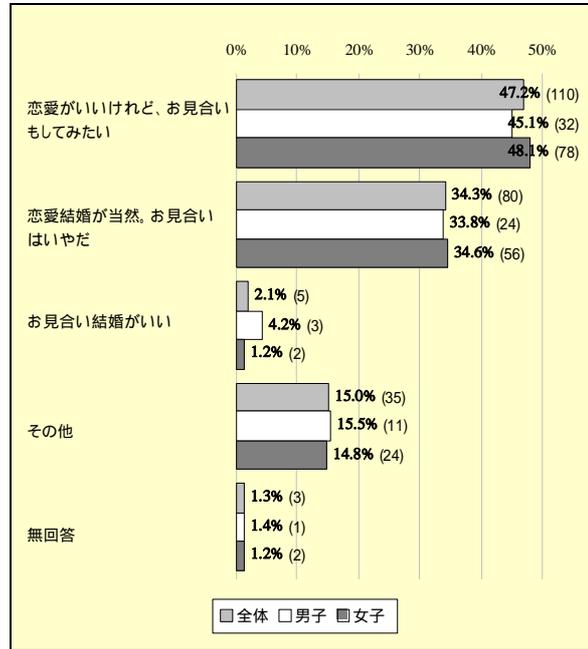
男女とも約5割がお見合い結婚でも「OK」
3人に1人の割合に留まった恋愛派

恋愛結婚とお見合い結婚について聞いてみたところ、「恋愛がいいけれど、お見合いもしてみたい」が男女とも4割を超え第1位となりました。

一方、「恋愛結婚が当然。お見合いはいやだ」と答えた“恋愛派”の人は、男女とも3人に1人の割合に留まりました。

その他では「いい人に出会えたなら」「気が合えば」など、「どっちでもいい」という恋愛・お見合いのどちらにもこだわらない意見が多く見受けられました。

恋愛とお見合い



6. 結婚したい年齢

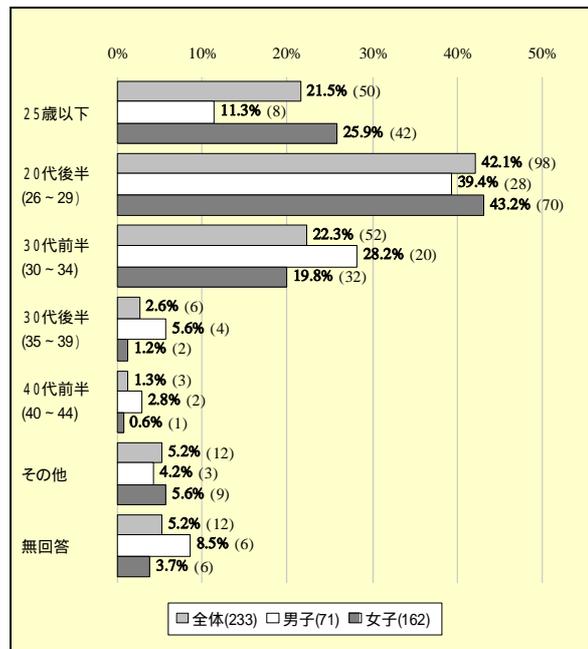
男女とも20代後半(26~29歳)がトップ
30代前半と考えている女子は5人に1人

結婚したい年齢について聞いてみたところ、男女とも20代後半(26~29歳)が最も多く、男子で39.4%、女子で43.2%となりました。

次いで、女子では卒業3年後の25歳ぐらいまでに結婚したいと答えた割合が25.9%と4人に1人となり、20代での結婚を希望している割合が69.1%と7割となりました。

一方、30代前半で結婚したいと答えた割合は、19.8%と約2割で、32人中27人は30歳を挙げており、女子にとっては30歳が結婚のひとつの節目といえそうです。男子では30代前半が28.2%と3割に迫っています。

結婚したい年齢



7. 結婚相手との年齢差に対する意識

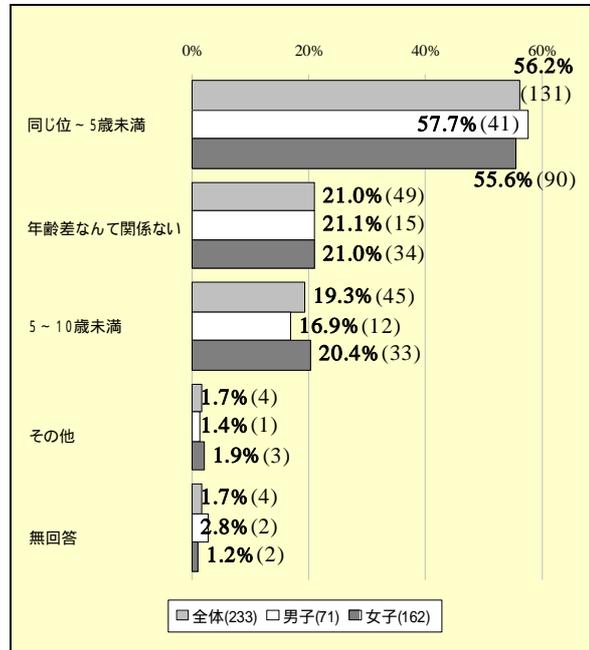
年齢差は「5歳まで」が半数以上
 “年の差なんて！”という人は5人に1人

結婚相手との年齢差について聞いてみたところ、最も多かったのは「同じ位～5歳未満」で全体の56.2%と半数以上を占めました。

「5～10歳未満」は約2割の19.3%で、女子では20.4%と男子（16.9%）を上回りました。

一方、「年齢差なんて関係ない」と答えた人は、全体の21.0%で、5人に1人の割合となりました。

結婚相手との年齢差に対する意識



8. 年上と年下へのこだわり

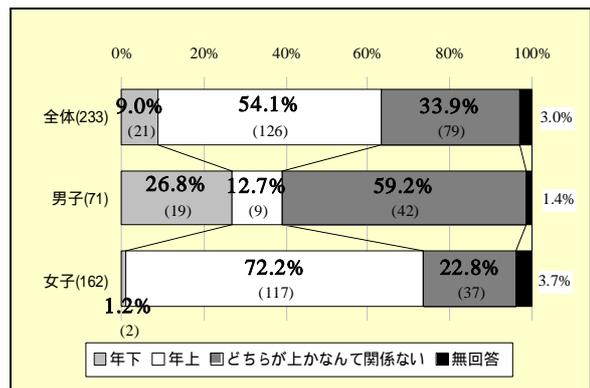
男子の6割が年上・年下に“こだわりなし”
 女子では7割以上が「年上」を希望

結婚相手が年上と年下のどちらがいいかについて尋ねてみたところ、女子で最も多かった回答は、「年上」で72.2%と7割以上に達しました。

男子で最も多かったのは「どちらが上かなんて関係ない」で59.2%と約6割を占め、女子の22.8%を大きく上回っています。

また「年上」と答えた男子は、12.7%と1割を超えました。スポーツ選手などの著名人と年上女性との結婚が何かと注目され、“姉さん女房”の存在が身近に感じられるようになったことも影響しているのかもしれませんが。

年上・年下へのこだわり



男子の約半数が「結婚式にこだわらない」
全体の約1割が海外挙式を希望

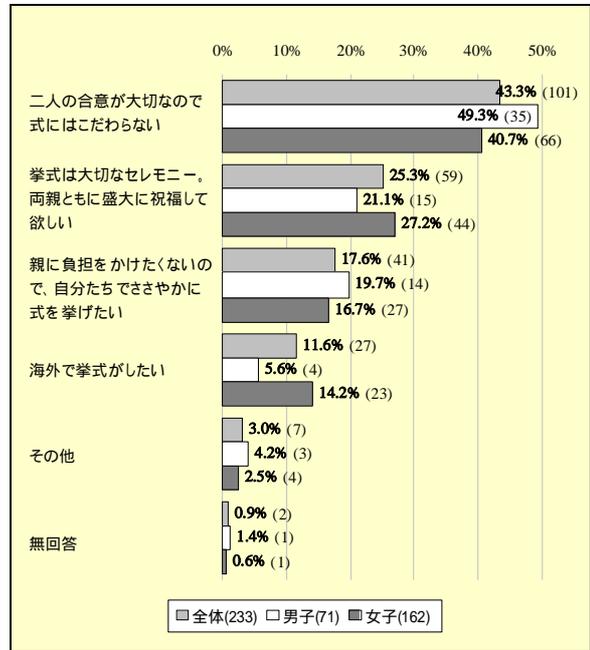
結婚式について聞いてみたところ、最も多かった項目は「二人の合意が大切なので式にはこだわらない」で、43.3%と全体の4割以上の割合となりました。

男女別で比較してみると、男子では他の項目を大きく引き離して「式にはこだわらない」が最も多く、49.3%と5割近くに達しました。

一方、女子でも「式にはこだわらない」が40.7%と最も多かったものの、「挙式は大切なセレモニー。両親ともに盛大に祝福して欲しい」が27.2%と次にランクされました。ハウスパーティーといった身内で祝う挙式が注目されているとはいえ、女性にとっては主役となれる華やかな結婚式へのあこがれを持つ人もまだまだいるようです。

一方、最近ブームの海外挙式については、女子の割合が高く14.2%となりました。

結婚式へのこだわり(複数回答)



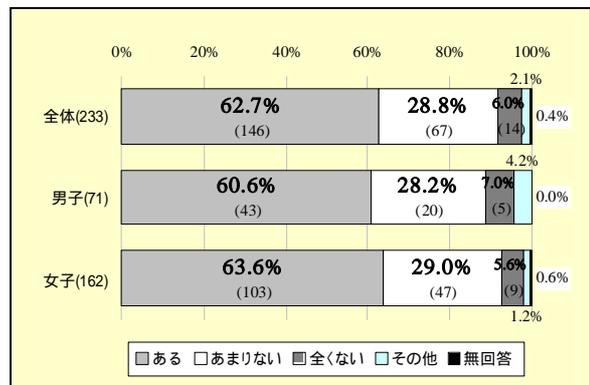
3割近くが離婚に「あまり抵抗がない」
「抵抗がある」人は3分の2の割合に

「離婚」への抵抗について聞いてみたところ、男女ともほぼ同じ割合で6割以上の方が抵抗が「ある」と回答しました。

一方、抵抗が「あまりがない」と答えた人は、女子が3割近くの29.0%と男子の28.2%を若干上回り、「全くない」と答えた人は、男子が7.0%、女子が5.6%でした。

離婚に抵抗があると考えている人が主流とはいえ、「あまりない」「まったくない」を合わせると、全体で34.8%、男子で35.2%、女子で34.6%と3人に1人の割合となっています。

「離婚」に対する抵抗

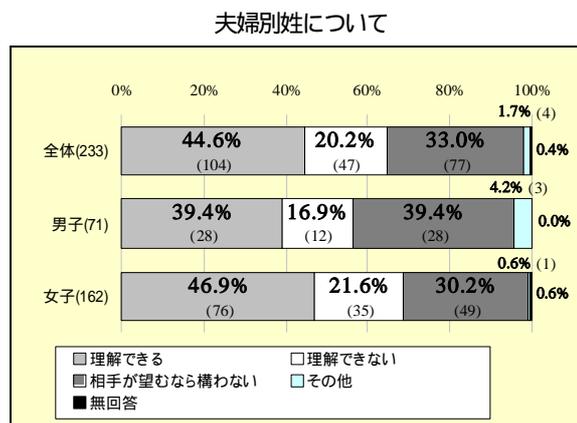


90年代後半から離婚率の上昇が広く話題になってきたことにより、若い世代の間では「離婚」という言葉にも“後ろめたさ”をあまり感じない人が増えてきているのかもしれませんが。

11. 夫婦別姓について

4割以上が夫婦別姓に理解 「理解できない」という“不支持派”の女子は約2割

夫婦別姓について聞いてみたところ、「理解できる」と答えた人が44.6%と4割を上回りました。また、「理解できない」と答えた人は20.2%と約2割、「相手が望むなら構わない」と答えた人は、33.0%と3分の1を占めました。



男女別で比較してみると、「理解できる」と答えた人は、女子が46.9%と男子(39.4%)を7.5ポイント上回り、女子の方が夫婦別姓“支持派”の割合が高いようです。

その一方で「理解できない」と答えた割合も、女子が男子(16.9%)を上回り、女子の夫婦別姓“不支持派”の割合は21.6%と2割を超えました。

また「相手が望むなら構わない」と答えた女子は30.2%となりました。女性の主張で進展してきた夫婦別姓の議論ですが、夫婦別姓でイニシアティブをとることに消極的な女子も見受けられる結果となりました。

国際結婚希望は全体の1割 女子の6割以上が日本人同士で

国際結婚について聞いてみたところ、最も多かった項目は「愛は国境を越えるけれど、やはり日本人同士がいい」で60.1%と6割を占めました。

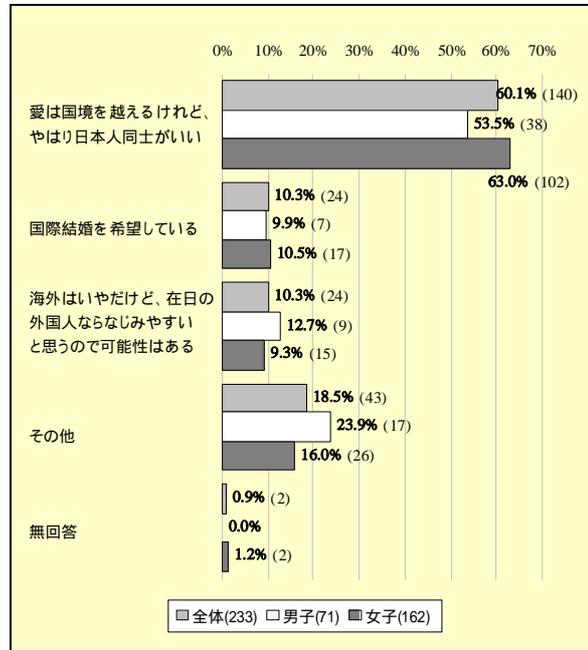
一方、「国際結婚を希望している」と答えた人は、10.3%と約1割に留まりました。

男女別で比較してみると、“日本人同士がいい”と答えた人は、女子が63.0%と6割を超え、男子の53.5%を1割近く上回りました。

また、「海外はいやだけど、在日の外国人ならなじみやすいと思うので可能性はある」では、男子が女子を上回り、12.7%と1割を超えました。

フリーアンサーでは、「外国人とはコミュニケーションが上手く取れなさそうだから恋愛は難しい」(女子1年)といった意見も寄せられ、外国人との結婚は、様々な面でハードルが高いといえそうです。

国際結婚について



13. 結婚後の仕事について

女子の7割以上が結婚後も仕事 子どもができて6割以上が仕事を続けたい

結婚後の仕事と子どもができてからの仕事について、女子には仕事を続けたいかどうか、男子には妻に仕事を続けてほしいかどうかを、それぞれ尋ねてみました。

女子で結婚後も「仕事を続ける」と答えた割合は72.8%と7割を超え、「仕事を続けない」と答えた割合(13.0%)を大きく引き離しました。

さらに結婚後も仕事を続けると考えている女子の3分の2にあたる66.1%が子どもができてからも仕事を続けると回答しています。

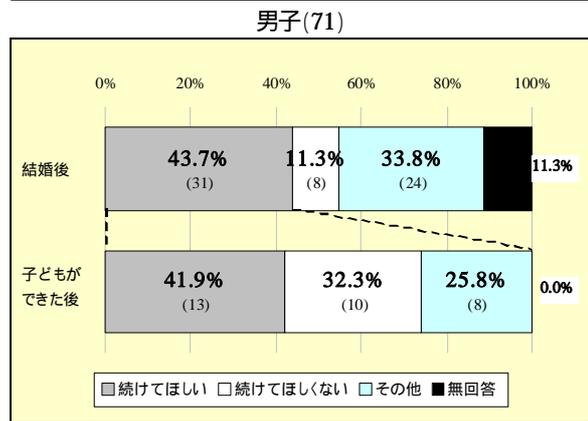
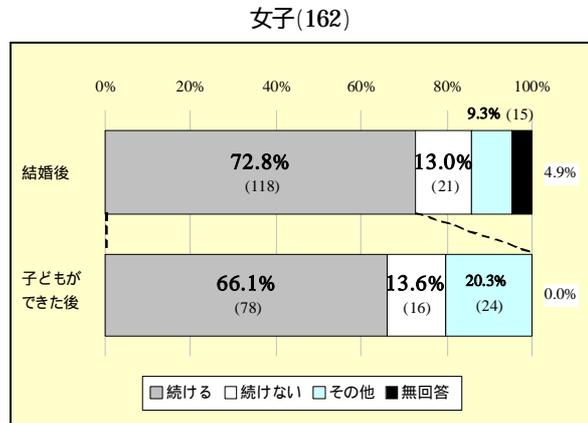
続ける理由として女子から寄せられたコメントは、「仕事が生きがいのから」「やり続けた仕事だから」といった仕事関係の意見が多く、ま

だ大学生とはいえ、仕事のやりがいや続けることに意義を見出しているようです。また「離婚に備えて」といった離婚も見据えている理由も何点か見受けられました。

一方、男子では結婚後も妻に「仕事を続けてほしい」と答えた人は43.7%で、「続けてほしくない」と答えた人は11.3%と約1割に留まりました。

男子からは、「どちらでもいい」という意見のほか、「本人の意思に任せる」という妻の考えを尊重する意見が寄せられており、結婚後に仕事を続けることに抵抗は少ないようです。

結婚後も仕事を続けてほしいと答えた男子のうち、子どもができてからも仕事を続けてほしいと答えた男性は13人で、割合にして41.9%となりました。



6割が“プライバシーの尊重、思いやり” 女子は彼の「将来の生活設計」を重視

結婚相手に求めるものについて聞いてみたところ、全体では「お互いのプライバシーの尊重など、相手への思いやり」が60.1%で第1位となりました。以下、「将来の生活設計」(51.1%)、「経済力と安定」(46.4%)、「精神的、性格的に自分がないものを持っている」(42.1%)と続いています。

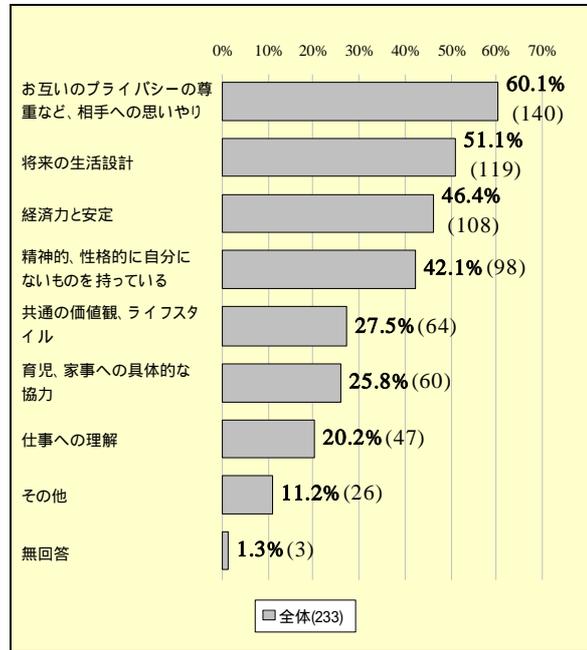
男女別で比較してみると、男子では「共通の価値観、ライフスタイル」(54.9%)がトップにランクされ、「お互いのプライバシーの尊重(以下略)」(52.1%)、「育児、家事への具体的な協力」(43.7%)が上位3項目となりました。

一方、女子では「将来の生活設計」(64.8%)が第1位となり、「お互いのプライバシーの尊重」(63.6%)、「経済力と安定」(59.9%)が上位3項目となりました。

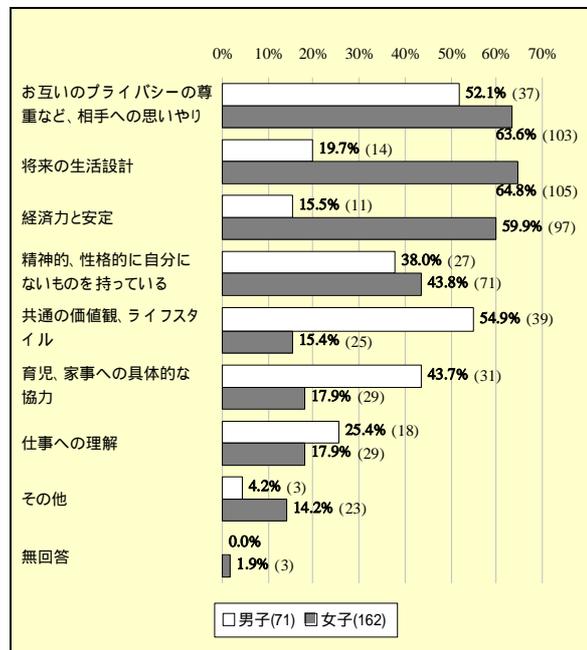
男子で注目されるのは、「仕事への理解」と答えた人が25.4%と4分の1の割合に留まったことです。また、「将来の生活設計」が19.7%、「経済力と安定」が15.5%と低い割合となりました。

その一方で、「育児、家事への具体的な協力」が上位に食い込んでいます。

全体(複数回答)



男女別比較(複数回答)



女子は「安定した収入の確保」
男子は「仕事はほどほどで家庭を大切に」

結婚生活で夫・妻に優先的に望むことを聞いてみたところ、女子では「安定した収入を確保してほしい」が31.5%で3割を占めトップとなりました。

以下、「育児家事など、具体的な協力」(21.0%)、「妻への愛情表現を具体的に(言葉、行動など)示してほしい」(17.3%)、「将来設計をきちんと示してほしい」(16.7%)、「仕事はほどほどで、家庭を大切にしてほしい」(11.7%)となりました。

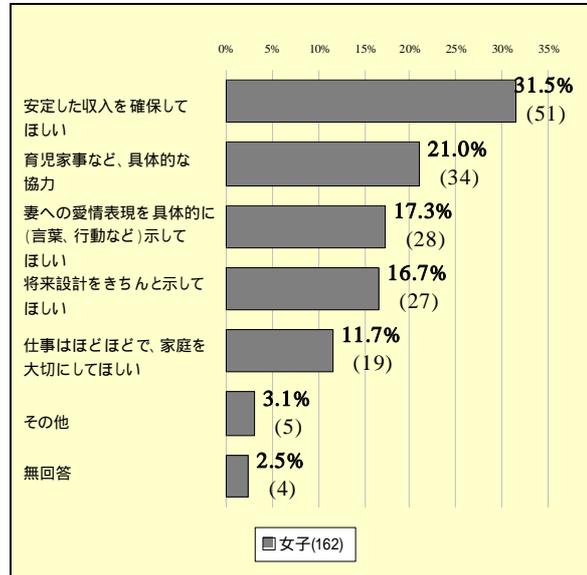
女子では、収入の安定や家事・育児の実利的な部分を優先的に考えながら、愛情という精神的な部分を望むといった側面がうかがわれ、相手の男性としては、様々な要求に答えていく必要があります。

男子では、「仕事はほどほどで家庭を大切にしてほしい」が25.4%で4人に1人の割合となり、「仕事を通じて自己実現をはかるなら、応援したい」(23.9%)、「料理だけは上手になってほしい」(21.1%)が2割以上を占めた項目でした。以下、「仕事に専念できるように、やすらぎのある家庭をつくってほしい」(14.1%)、「常に亭主をたてることにところがけてほしい」(4.2%)となりました。

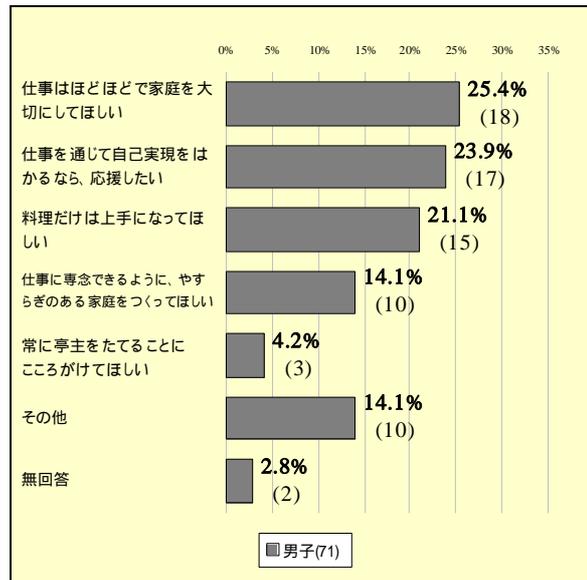
男子で上位に挙げられた3項目のうち、「仕事はほどほどに家庭を大切にしてほしい」という内容は、かつて女性の多くが夫に望んでいたことでした。

また、「仕事での自己実現を応援したい」も「内助の功」といった妻の意識としてよく言われていたことでした。「料理だけは上手になってほしい」を除けば、男子が妻に望むことは、従来の女性の意識と重なりあっているようです。

女子



男子



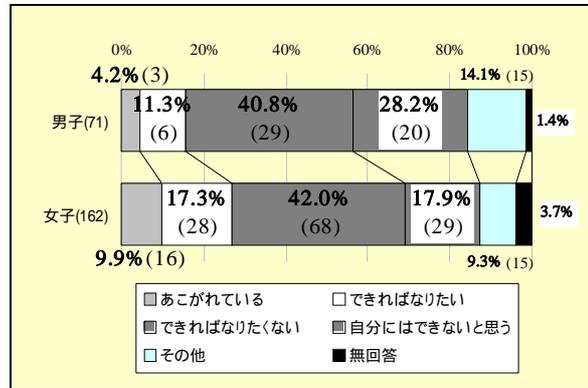
16. 専業主婦(主夫)について

専業主婦になりたくない女子は4割以上 専業主婦になりたい女子も4人に1人

専業主婦(主夫)について聞いてみたところ、最も多かった回答は、男女とも「できればなりたくない」で、女子では42.0%と4割を超える割合でした。

一方、女子では、専業主婦に「あこがれている」(9.9%)「できればなりたい」(17.3%)を合わせると27.2%と4分の1以上となりました。

専業主婦(主夫)について



17. 「子ども」について

全体の6割が「子どもはほしい」 男子よりも女子に多い子ども願望

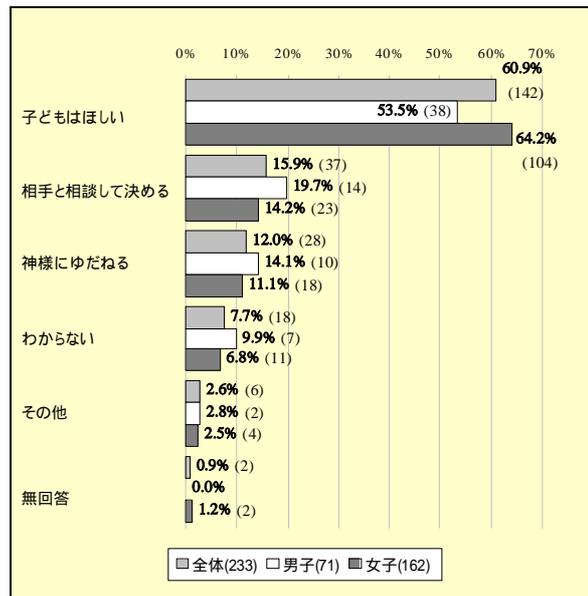
子どもについて聞いてみたところ、「子どもはほしい」と答えた人は、全体の60.9%で約6割が子ども願望を持っている結果となりました。

男女別で比較してみると、「子どもはほしい」と答えた女子は、男子の53.5%を上回り、64.2%と3人に2人の割合となりました。子ども願望は男子よりも女子の方が高いようです。

ほしい子どもの数を聞いてみたところ、最も多かったのは「2人」で全体の68.2%、次いで「3人」の20.9%でした。

ちなみに「1~2人」を1.5人、「2~3人」を2.5人として、ほしい子どもの数の平均を参考までに算出してみたところ、全体で2.20人、男子は2.24人、女子は2.19人で、平成14年の平均出産率1.32を上回りました。

子どもについて



	ほしい子どもの数		
	全体	男性	女性
1人	9 6.1%	3 7.5%	6 5.6%
1~2人	1 0.7%	0 0.0%	1 0.9%
2人	101 68.2%	24 60.0%	77 71.3%
2~3人	3 2.0%	1 2.5%	2 1.9%
3人	31 20.9%	12 30.0%	19 17.6%
4人	2 1.4%	0 0.0%	2 1.9%
5人	1 0.7%	0 0.0%	1 0.9%
平均(参考値)	2.20人	2.24人	2.19人

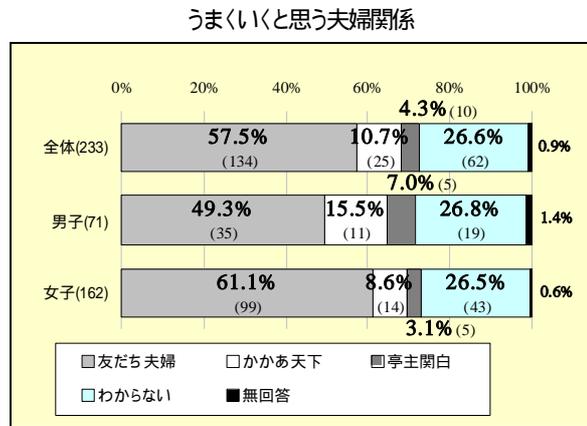
18. うまくいくと思う夫婦関係

うまくいくと思う夫婦関係は「友だち夫婦」 女子の約6割が“友だち感覚”を支持

うまくいくと思う夫婦関係について聞いてみたところ、「友だち夫婦」が多数を占め、全体で57.5%となりました。とくに女子で61.1%と約6割が“友だち感覚”の夫婦関係を支持しています。

「わからない」という回答は全体で26.6%と4人に1人の割合となり、男女ともほぼ同じ割合でした。

ユニークなところでは、男子の15.5%が「かかあ天下」の夫婦関係がうまくいくと思っており、「亭主関白」(7.0%)の2倍以上の割合となりました。



19. 結婚相手の親との同居

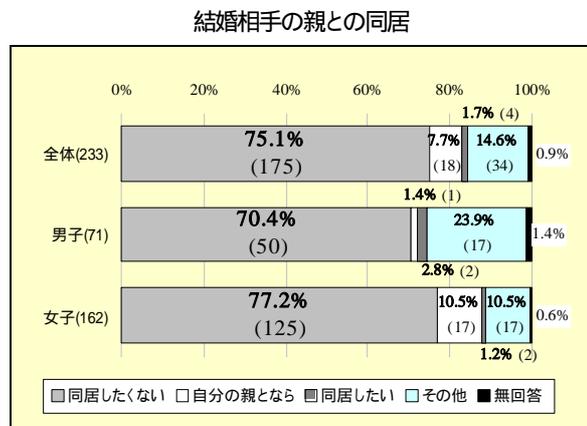
相手の親との同居したくない人は7割以上 自分の親との同居も、女子で1割

結婚相手の親との同居について聞いてみたところ、全体の75.1%と7割以上が「同居したくない」と回答、男女ともお互いに相手の親と暮らすことは避けたいというホンネの部分が見られました。

とくに女子では77.2%と男子の70.4%を上回り、4分の3を超える割合となりました。

一方、「同居したい」と答えた人は、全体のわずか1.7%でした。

「自分の親となら」同居したいと答えた人は、男子で2.8%と少数なのに対し、女子では10.5%と約1割を占めました。



「夫には家事をさせたくない」女子はわずか
「結婚してみないと」考える甘い見通しの男子

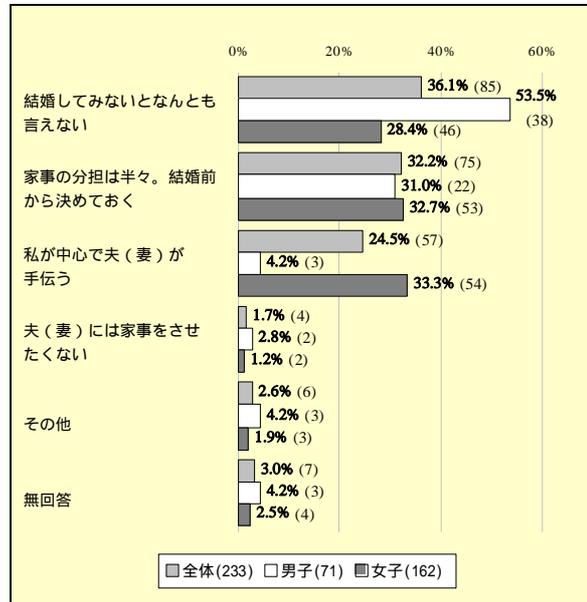
家事の協力について聞いてみたところ、男子では「結婚してみないと」なんととも言えないが最も多く 53.5%と半数以上、女子では「私が中心で夫が手伝う」が最も多く 33.3%と 3 人に 1 人の割合となりました。

「家事の分担は半々。結婚前から決めておく」は、全体で 32.2%となり、男女ともほぼ同じ割合でした。

「夫には家事をさせたくない」という女子はわずか 1.2%。視点を変えると、ほとんどの女子が「夫には家事をさせたい」とひそかに狙っ

ているようで、「結婚してみないと」と言っている半数以上の男子は見通しが“甘い”と言えます。

家事の協力



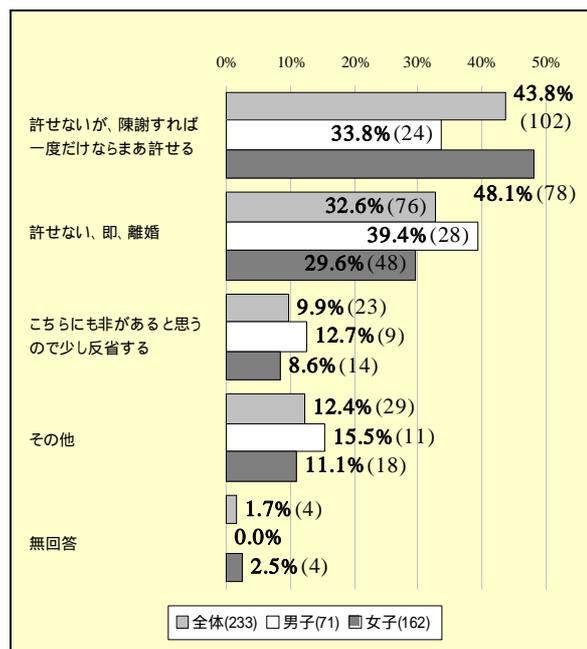
「陳謝すれば一度だけなら許せる」が 4 割
即離婚という“即断型”は約 3 分の 1

浮気を許せるかについて聞いてみたところ、全体では「許せないが、陳謝すれば一度だけならまあ許せる」が 43.8%と最も多く、男子で 33.8%と約 3 分の 1、女子では 48.1%と半数に迫る割合となりました。

相手の姿勢を正し、素直な謝罪の態度を見せれば許すといった寛容さは、女子の方が高いようです。

一方、「許せない、即、離婚」という“即断型”は、全体で 32.6%となり、女子で 29.6%と約 3 割、男子では 39.4%と約 4 割を占めました。

浮気について



2.2. 結婚生活を続けるための秘訣とは

「やさしさと思いやり」が4割 お互いの個性の尊重が次点にランク

結婚生活を続けるための秘訣について聞いてみたところ、全体では「やさしさと思いやり」が41.6%と4割を超え、第1位となりました。

以下、「お互いの個性の尊重」が22.7%、「価値観の一致」が16.3%と続いています。

男女別で比較してみると、女子では「やさしさと思いやり」(46.3%)が最も多く、次いで「価値観の一致」(20.4%)、「お互いの個性の尊重」(17.3%)の順となりました。

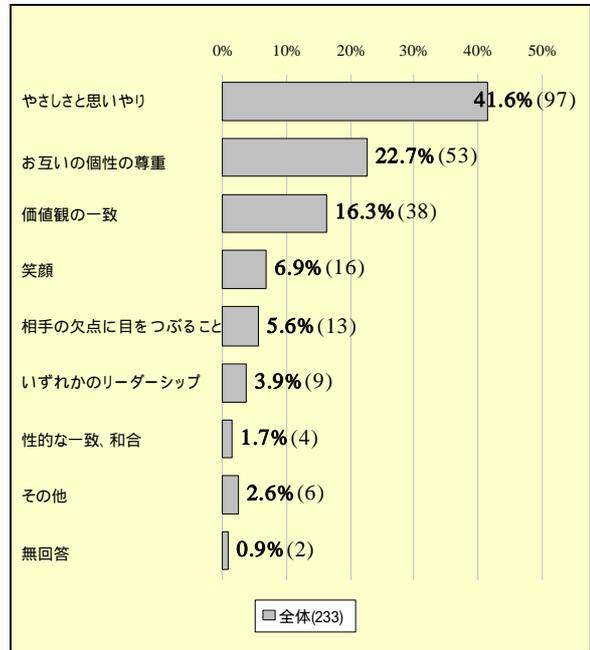
男子では「お互いの個性の尊重」が35.2%と3分の1以上に達し、次いで「やさしさと思いやり」(31.0%)、そして「笑顔」が11.3%と1割以上を占めました。

男女とも人間としての部分を重視する傾向が見られますが、男子では笑顔といった夫婦間の明るい雰囲気づくりも結婚生活を続けるための秘訣と考えているように見受けられます。

その他、気になる点では、「相手の欠点に目をつぶること」と答えた人が男女とも5.6%とわずかな割合に留まりました。

やさしさ、思いやり、個性の尊重を秘訣としながら、「相手の欠点に目をつぶること」をあまり重視していないところは、少し矛盾を感じますが、欠点も含めて率直に言い合える間柄によって「やさしさと思いやり」にもつながるといのが最近の学生が考えている意識なのかもしれません。

全体(複数回答)



男女別比較(複数回答)

